

2009年7月8日

会員・関係者 各位



特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会
連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)
ホームページ <http://khj-olive.com/>

やっと梅雨本番の感じが致しております。
先般開催のNPO法人化1周年記念講演会に際し、ご参加・ご協力いただき無事終わることが出来ましたこと、厚くお礼申し上げます。今後とも、より一層のご指導ご支援をお願い致します。さて、7月の月例会を下記の通り開催致しますので、ご案内申し上げます。

第85回月例会ご案内

- 1) 日時 7月26日(日)
13:00~13:30 受付
13:30~13:40 理事長から報告・連絡
13:40~14:30 ・KHJ高知県「やいろ鳥」の会
設立3周年記念講演会の報告
「ひきこもり相談窓口の将来展望について」
「ひきこもりを巡る家族のあり方、
或いは人との繋がり方」
14:30~16:30 ビデオ学習「ひきこもる大人たち」
引き続き グループ別話し合い
- 2) 場所 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い
- 3) 参加費 1家族 1,000円

【今後の月例会】

- 8月23日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30
講師 香川大学教育学部准教授・臨床心理士 竹森 元彦氏
- 9月27日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30
講演「ひきこもりと発達障害」
講師 香川県精神保健福祉センター所長 藤岡 邦子 氏

【居場所活動予定】

7月 5日 (日)	運営委員会	(13:30 ~ 16:00)
7月11日 (土)	松田先生 個人カウンセリング	(9:00 ~ 13:00)
7月25日 (土)	松田先生 家族相談	(9:00 ~ 12:00)
7月25日 (土)	ポパイの会	(13:30 ~ 16:00)

【ポパイの会】

7月4日(土) さぬき若者サポートステーション(丸亀)の体験発表会に出席しました。
7月19日(日) KHJ 高知県やいろ鳥の会3周年記念フォーラム出席予定です。高知の若者と交流できればと思っています。
7月25日(土) は居場所です。気楽な集いなのでお茶だけに来ていただいても結構です。一度参加してみませんか！

【おしらせ】

子ども・若者育成支援推進法が成立

ニートや引きこもりの若者の支援体制を整備する子ども・若者育成支援推進法が1日の参院本会議で可決、成立した。政府の原案では「**青少年総合対策推進法案**」だったが、青少年の範囲を明確にすべきとの民主党の主張を与党が受け入れ名称変更した。

若者や子ども支援の国・地方自治体の役割などを検討するため、内閣府に首相を本部長とする育成支援推進本部を設置。これまで児童相談所や非営利組織(NPO)などがばらばらに手掛けていた子ども・若者支援をネットワーク化することも盛りこんだ。(日経01日 13:02)

【今後の流れ】 本法律 推進大綱 既存や今後の施行法 条例等

情報提供：本部・(別紙)なでしこの会

さぬき若者サポートステーション(丸亀)の体験発表会に出席

7月4日(土) さぬき若者サポートステーション(丸亀)の体験発表会に出席しました。当日は会場のパソコン教室がいっぱいになり発表者は男子3名でしたが、緊張を少しでも解そうと驚見所長様が時間を少しとって、その場を和らげてから発表にうつりました。

不安を抱えての高知での合宿の体験談、何のためにするのか？そして良かったこと、悪かったことなどをサポZERO(リセットしてゼロからスタート)会議で出し合って、自分達を見つめ直す機会が持てたことなど語ってくれました。また、サポステの支援を受けるようになってからの自分自身の変化(人とのかわり方など)、焦り、辞め癖、逃げ癖のある自分がパソコン演習を続けることが出来、面白くなり忍耐強くなったこと、そして現在に至るまでカウンセリング(相談)を必要なときに受けることが出来たことは、自信を失くした若者にとって聴いてくれる他人がいたことは、大変心強かったのではないのでしょうか。他人の前で発表出来たのですから凄い進歩だと思います。

さぬきサポステも画一的なプログラムから独自性を持ったプログラムで、よりきめ細かい、少しずつステップを踏める50の支援プログラムを開発、一人ひとりの状況に応じた個別、包括的支援が組まれております。

若者にお薄と七夕様の主菓子をお茶の作法で運んで頂き、そのうえコーヒーもご馳走になりました。元気がもらえるよう、また今後の激励も込めて帰り際に若者と握手をして帰りました。

【ひきこもり講演会より 6/21】

講演「訪問型相談と支援」を続けて（概要 当日資料参考）

～社会的孤立を生まない自立支援とは～

講師 さが若者サポートステーション 総括コーディネーター 谷口 仁史 氏
NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事

さが若者サポートステーション

地方自治体主導の支援ネットワークを活用した包括的自立支援

- ・スタッフ：臨床心理士・産業カウンセラー・社会福祉士・教員免許有資格者
- ・アウトリーチ（これまでの訪問とは違う新しいタイプの訪問型支援）の活用
臨床心理士・キャリアコンサルタントによる相談、支援
ひきこもり状態の若者を対象とした訪問支援
就労体験事業、職業意識啓発のためのジョブトレーニング、職業ふれあい事業
保護者を対象とした個別面談、セミナーなどの実施
支援ネットワーク構成機関と連携した包括的支援

社会的な背景から 青少年を阻害する諸リスク

- ・学齢期、就学期のリスク
子ども時代のいじめ、保護者などからの虐待リスク
いじめ認知件数 小学校 60,897 件 中学校 51,310 件
児童虐待相談件数 34,472 件 10年間で12倍以上の伸び
不登校や中退などの早期離学者
中学不登校10万人 高校中退7.6万人 中退後の状況は未把握
立ち直りのキッカケがつかめず再び非行へと走る若者
少年院出院者の再入院率（5年以内）17.4% 漸増傾向
- ・義務教育終了後、高等学校中退後のリスク
就職も就学もしていない若者 ニート推計62万人(H.19 厚労省)・85万人(内閣府)
離転職を繰り返す不安定な若者 フリーター数 180万人
非正規雇用の増加、常に平均を上回る若者の失業率
15～19歳 9.4% 20～24歳 7.7% 25～29歳 6.0% 失業率全体 4.1%
- ・共通するリスク
ひきこもり 推計50～100万人?? 160万人??
自殺者数 3万人超（約26%若年層） 事故死よりも多い
開設日645日間の集計（H.21.5 末現在）
- ・相談件数 18,303件 来所者数 12,052名 受付カード数 931名
学齢期に不応適経験・・・ 56%
発達障害（疑いを含む）・・・ 32%
精神医療ユーザー・・・ 33%
- ・アウトリーチ（訪問支援）関連 約42%
不応適問題に関する公的支援の「充実」
- ・学齢期：スクールカウンセラー、適応指導教室、心の教室相談員、思春期外来、心療内科、



- 電話相談窓口、児童相談所、精神保健福祉センター、フリースクール、親の会、自助グループなど
- ・義務教育終了後：キャリアコンサルタント、職業訓練校、ジョブカフェ、ヤングハローワーク、ヤングジョブスポット、若者自立塾、民間カウンセリング窓口、保健所、精神保健福祉センターなど
- 「来訪型」「施設型」支援が中心 「来訪型」の限界 支援策の充実に反した厳しい現実

不適応行動の具体的な事例を通じた考察

- ・不適応行動の背景には要因がある
- ・要因は個々によって様々
- ・複合的な要因（教育、雇用、家庭、社会問題など）が作用
- ・誰にでも起こり得る状態 何がしかの不適応要因に配慮した対応・「心の居場所」を確保しつつ関わる

どうやったら うまくいくの？（支援策の充実に反した厳しい現実）

- ・実効性のある支援とは？

得られなかった「必要経験（その当事者に合った必要経験）」を補う

「ニート」化の背景について（ニートの状態にある若年者の実態及び支援策に関する調査研究）

厚労省

- ・「学校でのいじめ」被害・・・55% 精神科、心療内科で治療・・・49.5%
- ・「不登校経験」・・・37%

「就労意識」について

- ・仕事をしていないとうしろめたい・・・82%
- ・社会や人から感謝される仕事がしたい・・・82%

「支援に当たっての留意点」について

- ・人に話すのが不得意・・・64.4%
- ・（仕事をしていく上で）人間関係に不安を感じる・・・80.9%

社会的孤立を生まない支援体制の確立に向けて

さが若者サポートステーションの取組みは？

- ・アウトリーチ（訪問支援）のノウハウの活用

支援対象者との「関係性」を重視した若い相談員の活用

「学齢期の問題から」継続的に対応

社会適応訓練の場としての「コネクションズ・スペース」併設

フリースペース（専門家が常駐して社会適応訓練をしている）

世代の若い相談員（20代、30代）の配置

対人関係・コミュニケーションパターンの転換

中間的なトレーニングメニューの提供

「歪められた認知の修正」「必要経験の補充」

「職親制度」と認知行動療法を活用した新しいジョブトレ

市民活動団体を含む「重層的な支援ネットワーク」

コーディネーターによる自立までの一貫したフォロー

実際に悩みを抱えたらどうすれば良いの？

節度ある「受容」

- ・誠意を持って「受け止める」
不適応要因の「追及」ではなくあくまでも「配慮」
ペースチェンジ、必要に応じた方針転換
- ・極端な行動を避ける
心の居場所を確保しつつ関わる
急激な変化がもたらす「負」の影響を知る
- ・適切な時期に適切な方法で動き出す意識
「美談」や「根性論」に騙されない
「全面的受容論」の限界

「積極的」「待ち」の姿勢

- ・環境の中で解決できる問題と向き合う
必要のないストレス要因は減らす
「安全」「安心」の確保
- ・保護者や家族だけで抱え込まない
「木」の上に「立」って「見」る「親」の役割
バランスを保つための手段を持つ
- ・本人が動き出す時のための「事前準備」

「つながる」・「つなげる」力

- ・「口コミ」や「実績情報」を集める
「地域」だけでなく「全国」の情報の収集
第三者の視点を踏まえての「比較検討」
- ・信頼できる専門家と「つながる」
相互理解と信頼関係の構築
具体的対応方針と将来的展望の共有
- ・必要に応じて他者に「つなげる」
「個人的なつながり」の意識（「関係性」の重視）
コーディネーターとしての役割の重要性



長期化・深刻化した場合どうするの？

多面的アプローチの必要性

- ・事例から学ぶ関わりのポイント
適切な関わりができる第三者の関与
家族の理解、家族支援の重要性
コミュニケーションパターンの転換
「認知」「行動」両面からのアプローチ
- ・ストレスのコントロール
ボランティア活動からの段階的移行
新しい「価値観」や「生き方」の模索
伴奏者（コーディネーター）の存在

講演時間が短く谷口氏にはかけあしでお話頂き、参加者の皆様にもご迷惑をおかけ致し申し訳ございませんでした。次回は新しい支援メニューのお話などお聞きできればと思います。以上（文責：川井）